

国内学協会誌の著作権に関する記述調査

(生命科学分野、2026)

－2022 年との比較－

前田郁子

大阪大学附属図書館研究開発室

本調査は、国内学協会による自機関発行ジャーナルの著作権およびライセンス規定・ポリシーについて実際の文書記述をもとに調査した昨年ⁱの続編となる。昨年の調査では、学会名鑑の分野区分全 30 分野について会員数上位 10 団体すべての学協会とジャーナルを対象としたⁱⁱ。本調査ではこれらのうち生命科学 10 分野を対象に改めて整理を行った。その結果、対象ジャーナルタイトル数は 486 から 139 となった。また昨年のデータ収集時期は 2022 年 1～2 月であり、現在までの間に政策や社会情勢に様々な変動があったため、改めて 2026 年の文書を収集し比較を試みた。

対象学協会とジャーナルは 2022 年データ収集時のものをそのまま使用している。収集対象文書も前回同様、著作権規定、投稿規定、執筆要領、その他著作権に関する手続き文書であり、ウェブ上に公開されているものを対象としている。従って冊子のみに掲載されているものや会員等にアクセス限定されているものに関しては収集していない。

著作権のポリシーは学会の方針、ジャーナルの性格、プラットフォーム(海外出版社等を含む)によって異なるため、プラットフォーム、ジャーナルの和洋についても情報収集の対象とした。

2022 年の段階では、139 誌のうち 7 誌には著作権に関する記述がウェブ上で見当たらず、それらはすべて和雑誌であった。うち 4 誌はウェブ上に投稿規定自体をみつけることができなかった。また著作権に関して、学会の著作権規定として策定しているものが 13 誌、ジャーナルごとの投稿規定を設けているものが 119 誌であった。

オープンアクセスについては、刊行途中からオープンアクセスジャーナルに変更された場合、オープンアクセス変更前のものと変更後のものとに別々のポリシーを適用させるケースも多く見られたため、記述分析の中で言及する。これらについて 2026 年の状況とも比較し、当日報告する。

ⁱ 国内学協会誌の著作権に関する記述調査－投稿規定、著作権規定等の文書より－, 2025, MIS40 での発表

<https://plaza.umin.ac.jp/mis/40/program.html> (accessed 2026-06-29)

ⁱⁱ 「研究分野の多様性を踏まえた研究公正規範の明確化と共有」(科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム(第 3 期：令和 3～6 年度)採択課題)の一環として収集したもの。